

地域における歴史的特性が住民の空間イメージに与える影響に関する研究  
 ～東京渋谷区松濤地区を対象にして～

都市空間生成研究室  
 1641108 田中 領良

地歴 空間イメージ SD 法  
 松濤 高級住宅街 因子分析

1. 研究の目的と背景

都市開発によるまちの変化が急激に進んでいる東京都心では、まちが新しく便利になる一方で、歴史的な魅力や昔の名残がある風景が失われていくといった、まちの何を残し、何を更新するのかという議論が切迫した課題となっている。

そこで本研究では、歴史的な謂れが成立のルーツにある高級住宅街であり、かつ変化の激しい渋谷に隣接している松濤というまちがこの課題を考える場として最適だと考え、地域における歴史的特性<sup>\*1</sup>を明らかにしたうえで、地域住民のまちについての空間イメージ<sup>\*2</sup>と歴史的特性についての空間イメージを調査し、その結果を比較・分析することで、地域における歴史的特性と住民の空間イメージの関係性、及びその影響を明らかにすることを目的とし、調査を進めていく。

2. 研究の方法

本研究では、まず松濤地区における歴史的特性を抽出し、その結果をもって松濤住民の空間イメージに歴史的特性がどのように関わっているのかを解明することを目的とする。従って、目的達成のために次の順序で研究を進める。

- ① 既往研究や文献の分析による歴史的特性の抽出
- ② SD 法を用いた地位住民の空間イメージの抽出
- ③ 主成分分析・因子分析を用いた②の分析と考察

3. 松濤地区における歴史的特性の抽出

3-1. 調査方法

松濤についての既往研究及び文献から松濤の形成史を読み解くとともに、地歴として継承されている歴史的特性を抽出する。対象の研究・文献は、CiNii にてタイトルに「松濤」を含む、歴史についての関連性が高いものを対象にした。

3-2. 分析を行った既往研究及び文献

表 1 に示す計 4 点を対象として分析を行った。表内の番号は本書の参考文献の欄の番号と一致する。

表 1. 分析を行った既往研究及び文献

No.	内容
1	当時の大名家や華族の所有する大規模な土地がどのように筆を分けられていったのか、当時の地籍台帳から読み解き、類型化した。
2	明治～昭和の筆の動きと開発者の意図に着目して田園都市としての松濤の開発過程を分析した。結果として開発を主導した原氏の重要性に至るとともに、現在の松濤の原型に当時最先端の田園都市的な計画性があったことを明らかにしている。
3	松濤の特質を現在まで残されている地歴を見出すことで明らかにしている。主導者の方針に基づいた結果として附近住民の意見を取り入れた公園が作られたこと、その公園や庭園を転用した街区や道路を、現代に残る地歴を継承した特質とした。
4	渋谷の暮らしに注目して編纂された特別展の中での松濤についての言及。当時の工事資料を参照したり、住民・住居への取材を行うことで、他の資料よりもミクロな視点で松濤の形成や実際の暮らしの実情を明らかにしている。

3-3. 歴史的特性の抽出

下記の図に示す計 5 つの継承された地歴を歴史的特性として抽出した。



図 1. 松濤の歴史的特性プロット図

#### 4. 松濤住民の空間イメージの抽出

##### 4-1 調査方法

SD 法による印象評価を通して、松濤住民がもつ空間イメージの抽出を行った。評定のための形容詞対は 25 対を作成し、「かなりーややーどちらでもないーややーかなり」の 5 段階評価とした。またこの 5 段階の評価に対し、分析のために回答を左から 1 点ずつ最大 5 点でスコアづけした。

##### 4-2. 調査結果

回答は図 2 のような結果となった。松濤全体についての特徴的な評価は、「閑静ー喧騒」「プライベートーパブリック」「歴史のあるー歴史の浅い」また「庶民的なー貴族的な」「柔軟なー強硬な」、鍋島松濤公園についての特徴的な評価は、「歴史のあるー歴史の浅い」「大名庭園の名残を感じるー感じない」「英国風なー和風な」また「プライベートーパブリック」、グリッド状区画についての特徴的な評価は、「都会生活ー郊外生活」「閑静ー喧騒」また「窮屈なー広々とした」「庶民的なー貴族的な」となった。最もばらつきが出た図 2 の 18 番の形容詞対である「プライベートーパブリック」について、松濤という地域への強いプライベートなイメージが、高級住宅が連続して並ぶ道路から来る反面、強いパブリックなイメージを鍋島松濤公園に対して持つと考えられる。この結果は高級住宅街における都市公園の存在が、そのまちにおいて貴重な開かれたパブリックな空間として重要な役割を担っていると考察される。

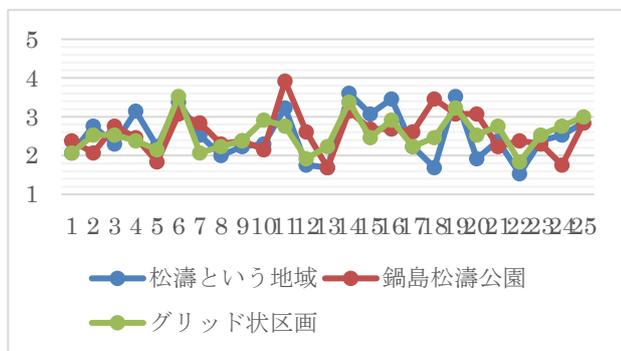


図 2. 各形容詞対の回答結果の平均値

##### 4-3. 分析結果

回答について主成分分析を用いた分析を行った。主成分分析により各回答者に共通してみられる回答の分散の傾向を明らかにした結果、特に鍋島松濤公園について、半数がポジティブな印象を鍋島松濤公園に対して持ち、また 2/3 がまちの昔の姿を好意的に想起させる印象を持っているということが明らかになった。

表 2. 主成分分析結果：鍋島松濤公園

評定者	世代	性別	居住歴	主成分1	主成分2	主成分3	主成分4	主成分5
1	70代	女性	35年	-5.3258	-2.9301	2.3268	1.3627	-0.1814
2	60代	男性	47年	4.0740	-1.7750	-0.4626	0.4049	0.4435
3	60代	男性	11年	-2.3454	0.4988	1.5756	-1.8735	-1.9405
4	50代	男性	45年	4.0240	3.6312	1.7654	2.2158	-0.0343
5	50代	男性	20年	2.6259	-1.7123	1.9277	-0.9683	1.6731
6	50代	男性	50年	0.7937	-0.3968	-2.3583	0.2717	-1.4825
7	50代	女性	25年	-1.6266	-0.1541	-0.6584	-1.2274	2.8087
8	70代	女性	70年	-1.0021	4.2699	1.7419	-1.6856	-0.1098
9	70代	女性	70年	1.1878	-0.9064	-0.9453	0.1294	-1.0589
10	70代	女性	30年	2.1204	-1.9912	-0.8016	-0.7739	-0.8418
11	80代	女性	58年	-3.4706	2.3993	-3.6791	1.0488	0.7855
12	60代	女性	20年	0.3164	-0.3733	-1.2949	-1.4403	-0.1537
13	70代	女性	50年	-1.3717	-0.5598	0.8628	2.5356	0.0921

#### 5. 結論

松濤地区の歴史的特性を抽出し、それらが地域住民の空間イメージにどのような影響を与えているのかを、SD 法による印象評価により定量的に明らかにすることが出来た。その結果、高級住宅街における歴史的特性としての公園が、まちにおいて特異なパブリックな空間として機能し、さらに住民の空間イメージに対し昔の街の姿を好意的に想起させる役割を持っているということが明らかになった。大名邸宅の跡地が宅地分譲され現在では高級住宅街となっているという例は松濤に限った話ではなく、例えば品川区池田山の池田山公園や港区の旧芝離宮恩賜公園など、多くの高級住宅街と公園において本研究で明らかになった関係性が築かれている可能性は十分に考えられる。とすれば、高級住宅街におけるこれからのまちの変化に対する方針として、歴史的特性としての公園を保全し街に残し続けていくことは、都市における保存と更新の議論の一つの回答となるのではないだろうか。

##### 注

- 1) 本研究で用いる「歴史的特性」という単語は、まちの形成や歴史の変遷の中で更新されず残った、もしくは都市形成の中で残された地理的な特徴と定義する。
- 2) 本研究で用いる「空間イメージ」という単語は、住民が地域に暮らすことで得た体験に拠って想起されるイメージと定義する。

##### 参考文献

- 1) 野村悦子：明治末期から昭和初期までの旧大名の宅地所有地の変遷-地籍台帳の分析による宅地所有形態類型化 その(2)-, 日本建築学会計画論文集, No. 517, pp. 229-234, 1999 年
- 2) 吉家まち子：田園都市・渋谷松濤の開発過程-土地台帳分析による-, 学術講演梗概集.F-2, 建築歴史・意匠 (2005), pp. 145-146, 2005 年
- 3) 池田類, 三島伸雄, 田口陽子：地歴からみた東京郊外住宅地松濤の性質, 学術講演梗概集.F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題 (2011), pp. 767-768, 2011 年
- 4) 白根記念渋谷区郷土博物館文学館：住まいからみた近・現代の渋谷：郊外生活から都市生活へ：特別展, 白根記念渋谷区郷土博物館・文学館, pp. 41-46, 2007 年